

女と男のいる舗道（1962）

VIVRE SA VIE
IT'S MY LIFE
MY LIFE TO LIVE

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 フランス
色彩 B&W
時間 84分
初公開日 1963/11/19
公開情報 ヘラルド
リバイバル 1994/10 [ヘラルド]

【解説】

この映画のルイズ・ブルックスを思わせる断髪のA・カーリーナは本当に魅力的だ。ゴダールが彼女を撮る姿勢に愛情が満ち溢れているからか。実生活でも蜜月の季節を送っていた二人だ。カーリーナ演ずる、ゾラの有名な小説の主人公と同じ名を持った女ナナは、娼婦がレビュー女優に成り上がるゾラのヒロインとは逆に、娼婦に零落する女優志願の娘。若くして結婚し、子供をもうけたが離婚して家を出た。安月給のレコード店員では生活が持たず、つい男に誘われ、体を許した代償として金を受け取ってしまう。そのうちポン引きのラウルと出会い、彼に好意を持った彼女は完全な娼婦に仕込まれる。だが、かりそめの愛も春を売る暮らしにやがて冷えきり、彼女は無感動に日々を費やす……。全編を12の章立てにし、ゴダールは物語的興味を例の如く分断するが、それでも映画館で「裁かるゝジャンヌ」を見て涙する場面、カフェで偶然隣合わせた老哲学者と語り合うくだりなど実にエモーショナルだ。

【クレジット】

監督 ジャン＝リュック・ゴダール Jean-Luc Godard
脚本 ジャン＝リュック・ゴダール Jean-Luc Godard
撮影 ラウル・クタール Raoul Coutard
音楽 ミシェル・ルグラン Michel Legrand
出演 アンナ・カーリーナ Anna Karina
サディ・レボ
ブリス・パラン
アンドレ・S・ラバルト André S. Labarthe